

馬獣医のよもやま話④1 本田博代壽獣医師

乳汁pH値の頼りすぎにはご用心！



静内診療所
本田博代壽 (ほんだはやと)
熊本県出身
平成26年3月
帯広畜産大学 卒業
同4月
日高軽種馬農業協同組合
入社 静内診療所勤務

昨年4月に入社しました本田博代壽です。まだまだ未熟者ではありますが、はやく皆様のお役に立てるように日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、4月になって生産牧場ではお産ラッシュで多忙なことと思われます。夜間分娩監視の毎日で寝不足の方も多いのではないのでしょうか？今回は分娩予測法として普及してきている乳汁pH値のことにしてお話しさせていただきたいと思います。

分娩日が近づいてくると乳汁は白く不透明になってきます(図1)。乳汁pH値を用いた分娩予測法というのは、予定日が近づき乳房が腫脹してきたら夕方に乳を少量搾りpH試験紙に浸してpH値を測定するという方法です。分娩約1週間前ではpH8前後ですが、徐々に下がっていきpH6.4以下まで下がれば2,3日以内に産まれる確率が高いとされています。多くの馬はこの値に当てはまり、夜間監視を行なう上で非常に良い指標となります。しかし、一部の馬ではこの指標から外れることがあります。それは単純な個体差も考えられますが、その他にいくつかpH値予測が外れやすい状況があるので生産者の皆様には気をつけていただきたいと思います。それは次のような場合です。



図1、分娩前の乳汁の色と透過性の変化と測定用pH試験紙
【測定法の参考HP】blog.jra.jp/ikusei/2011/05/post-d30d.html

①初産にご用心！

初産馬では、ご存知のように分娩前の乳房の張りも弱く、乳汁が搾りにくいことが多々あります。分娩2,3日前によく搾れるようになり、そしてpH6.4以下にならないまま産まれる、というも珍しくありません。初産馬においては搾りやすくなったら注意！と考えておいた方がよいでしょう。

②乳房炎にご用心！

分娩前から搾乳することは乳腺への感染のリスクを伴います。そのため作業前の手洗いと乳房の消毒が推奨されています。特に気温の上がる5~6月に乳頭口が汚染されると感染のリスクが上昇します。乳房炎になった乳汁では成分が変化し凝集塊が混入したり(図2)、pH値の再上昇が起こります(図3)。乳汁は肉眼的に異常がなくてもpH値が変化していることもあり、分娩予測の指標として使えなくなります。暖かい時期のpH値再上昇には要注意です。

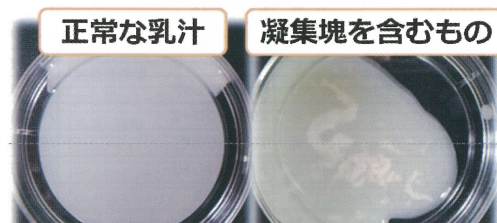


図2

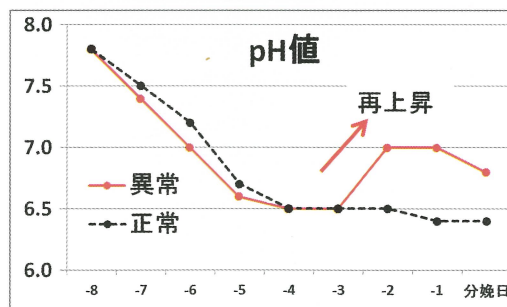


図3

③急激な変化にご用心！

乳汁を搾っていると、急に搾りやすくなった！色が変わった！とか、1日でpH7.8→6.8になった！という経験があると思います。このような場合は、pH6.4以下になっていなくても要注意です。急激な変化が現れた日にはお産する確率が高くなります。

以上、3つのご用心！に注意し、予測を行なうようにしましょう。それぞれの馬において毎年の特徴を知り、総合的に判断することでpH値は非常に有用な指標となります。

全ての馬が安全なお産を迎えられることを願っています。